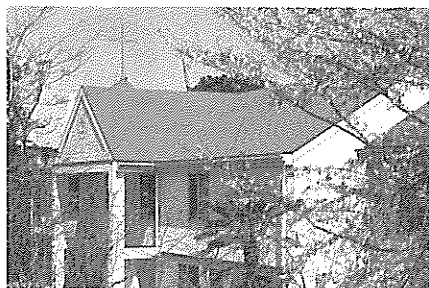


CBC NEWS

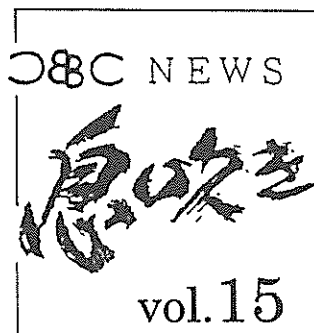


中央聖書学校は、本年五〇周年を迎えます。滝野川の神召教会の一室よりはじめられた聖霊神学院が、第二次世界大戦の後、駒込の山に移り、日本の救霊のための働き人(牧師・伝道師)を養成することを願って、再会されたものです。

再出発とその発展のためには、欧米の宣教団の協力力は心強いものでしたが、名譽校長弓山喜代馬先生をは

聖書学校から神学校へ

はじめ、先輩指導者たちの祈りと努力を忘れることは出来ません。この間五二〇名の方々を日本をはじめとする、内外の教会に霊的にも知的にも整えられた指導者として送り出してまいりました。そして卒業生が、本教団の大多数の教会に牧師・伝道師として奉仕されて



いる姿は壮観です。さらに素晴らしいことは、中央聖書学校を巣立った第二世代の教師陣が、牧会伝道をしつつ、教授・講師として多くの犠牲を払いながら支えていて下さることです。

このように、主の御守りと導きの中で、神学校は年毎に

充実されてきました。その上、第一線で働く卒業生たちの霊的・知的のさらなる向上を願って、研究科のコースも設けられました。

一九九七年には、アジア・太平洋神学協議会の認定校となり、さらに超教派のアジア神学協会(AITA)の認定校となつて卒業生にはB・TH(神学士)を授与する学校となったことです。

そこでこのたび、中央聖書学校は、名は体をあらわすの言葉の通りに聖書学校から神学校へと校名を変更することによつて、今日の中央聖書学校の実体を示すことになったのです。

いま、五〇周年を期に、また二十一世紀に向けて、キリストの教会を建て上げる有能な指導者養成の機関としての目的を持った神学校となるように、さらなる飛躍を願いつつ前進したいものです。

静心

何もかも変わってしまったように見える神学校の風景の中で変わらなずに残っているもの(残しているもの)も幾つかある。

その中の一つが、教団事務所の前に立つ大きなヒマラヤ杉である。

このヒマラヤ杉は実に堂々としている。工事音の喧騒の中でも全く動揺する様子もなく屹立している。昔は随分離れた場所からも見えたそうだが、恐らくこの五十年間毎朝庭に集合し、体操をする神学生たちを見下ろしてきたのであろう。

神学生たちも、毎年入れ替わり、変化しているように見えるが、変わらないものもある。それは主への献身の思いである。

これからも多くの献身者がこの学校の門をくぐるであろうが、このヒマラヤ杉と同様に、主が彼らを見守り続けてくださるに違いない。

(M・N)

CBC NETWORK

・十一月一日に、学生二十名による全生園訪問が行われた。

・早期試験が十一月九日に行われ、三名の受験者が集まり、筆記試験及び面接を受けた。

・十一月十六日から十八日にわたって教団総会が持たれた。学生たちは三日間にわたる奉仕と共に、八王子シャロン教会の木下重夫師による、教会会計の実践についての特別講義を受けた。

・五名の参加者を迎えて献身者準備会が十一月二十三日に行われた。参加者は在校生と共に北野、佐布両師の授業を受け、チャペルに出席し、歓迎昼食会で良い交わりの時を持った。

・十二月三日はダビデ・ハイムス師を講師に迎え、ゴスペル・イン・ザ・ナイトのクリスマス特別伝道集会が開かれた。学生達はスキットや奏楽の練習に励み、手作りのケーキ等を準備した。九十二名の出席者、二十名の新来会者と七名の決心者が与えられ、

・主の救いの御業を大いに誉めたたえた。

・冬期派遣は十二月十二日から始まった。約六週間の奉仕を終えて一月二十四日に帰寮した。

・中央聖書学校の冬期研究科が行われた。今回は一月十一日から十四日まで、北野、ハイムス両師による「研究科リサーチ方法論」が、十八日から二十一日まで、サイモン・チャン博士による「霊性神学」が開講された。

・中央聖書神学校入学試験が二月十日に行われた。早期試験と合わせて、最終的な合格者は男子五名、女子三名となった。

・四名の卒業生を送り出す第五十回卒業式が三月七日に新チャペルで行われる。

・三月十日から二十一日の十一日間、新四年生十名が、教授五名と共に東北教区にキヤラバン伝道に赴く。

中央聖書神学校学生募集

主の御声を聞いている者よ、来たれ！
入学資格：受洗後2年以上を経た忠実な教会員
高校卒業以上
住 所：〒170-0003 東京都豊島区駒込3-15-20
電話番号：03-3918-4925
入学案内は学校事務所にお申し出下さい。

神学校に、インターネットのホームページができました。時間割、教師紹介、校歌などなど盛り沢山です。その中でもCBCの学生が見ても面白いのが、今日の出来事と学生伝道集会ゴスペル・イン・ザ・ナイトのメッセージ、スキット(動画で見れます)です。一見、否、必見の価値あり、ぜひのぞいてみてください。

アドレスは <http://cbc.ag-journal.net> です。

ホームページ できましだい

編集

後記

主の年二〇〇〇年の新しい年を迎えてもう三ヶ月が過ぎようとしています。『卒業』の言葉を街のどこかで聞くことの多いこの時期、CBCでも五〇期生が卒業し、それぞれの任地に遣わされていきました。出合いは別れの始めと言いますが、それはまた、新しい出合いの始まりでもあります。

『神の祝福が豊かにあるように』と祈りつつ、その姿を楽しみに思い描きながら、主と主のことばにゆだねます。

いつか、また、どこかで。

(K)

編集スタッフ

別宮 健一
三宅 規之 田中 千香子
菅原 洋子 内田 信恵
日吉 成人 瀬上 博子
編集責任者 白石 禎男
事務局 中央聖書神学校
豊島区駒込三二五二〇
FAXTEL ○三三九一八四九二五
○三三九一八四〇六四

今、振り返って ～35年の奇跡～

伝道者の書三章一節には「天の下では、何事にも定まった時期があり、すべての営みには時がある」と記されています。このたび、永年奉仕させていただいた教務の職を去ることになりました。時はまさに二〇〇〇年という記念すべき年であり、この職を去る時だと覚えさせられています。

山城 晴夫
中央聖書神学校教務主任
神召基督教会牧師

ちょうど『扇子の要』のような働きだから」と言われた言葉が、つねに頭から離れることはありませんでした。同時に、「私のような者が、その大切な立場にいて良いのだろうか」という思いが交錯して来たことも事実です。

教会という重い荷を背負いながらの教務の働きでしたが、金力投球を目指しながら、この職に当たらせていただきました。「二兎を追う者は、一兎をも得ず」という言葉がありますが、そう言われないようにと自分自身に言い聞かせながら微力を傾けて来ました。

今、まだ多くのことをやり残しているように思いますが、有能な後任の先生が、さらに素晴らしい、私の出来なかったことをしてくださることを確信して、この職を去ることが出来ます。

今日まで、小さな者のために折り、力づけ、励まして下さった先生方や、学生諸兄弟に心から感謝いたします。

主にあつて

今冬は兵庫県の三田市にある三田ブレイズチャペルで、派遣の恵みに与りました。子育て真最中の牧師先生たちと生活を共にさせて頂きながら、赤ちゃんも含む教会の方々すべてを用いて御業を進めていける主を賛美しました。

与えられた奉仕の一つに「証」を毎週書き続けるというものがありません。一番書きたいことをと、ということでしたので、救いの証、献身に至るまで等を毎週書きました。神様の導いてくださった道をもう一度思い起こし文章にしているうちに、熱い思いがあふれてきました。「主はあの時もこの時も私に目を留め、声をかけてくださったのではなにか！これからも必ず私のために立ててくださった計画を成し遂げ、主の召しを全うさせてくださるんだ！」あと一

年の学びを前にして、このような奉仕を与えられたことは本当に感謝でした。

教会では週に四回の小さな学習教室が開かれています。そこに来ている子どもたちのためにクリスマス会が持たれた時、参加しているのはほとんどがノンクリスチャンであることに気づかされ、こんなにも大胆に福音を語れることに感謝しました。小学生も中学生も何人もが決心の手を上げていました。彼らはその後も先生たちとの信頼関係の中で学習教室に継続しています。きつと主につながる子どもたちが起こされ、教会を支えていくと思います。学習教室を開くようになって近所の方々が受け入れてくださり、地域に根ざすきっかけとなつたそうです。

神様が先生方ならではのユニークな働きを与えておられるのを見て、自分自身の具体的なビジョンを考えるようにも導かれました。多くの方々のお祈りを感謝します。

卒業



別宮 健一
大島キリスト教会
任地：人吉キリスト教会

CBCに入学した時が、ついこの間の出来事かのように、今でもその時のことを鮮明に覚えています。

あれから四年が過ぎて、今、卒業を迎えようとしています。

四年という時間の流れの中で多くのものが変わりました。この学校の名前も、寮の建物も、また社会も、それを構成する人も。

しかし、変らぬものが確かにあります。それは、イエス・キリスト。

イエス・キリストは昨日も今日も変わらない。二千年前のこの地上におられた瞬間から、いやその遙か永遠の昔から永遠に続く時間の中に、いつまでも変わらず、ともにおられる。その確信と、静かに、しかし決して消えることのない熱き主の思いを持って、ここから出て行きます。

今まで覚えて祈って下さった方々、本当にありがとうございます。

また、これからもよろしく願っています。



王子 久美
姫路キリスト教会
任地：名張キリスト教会

神学校のため神学生のために、そしてまた私のために祈り献げてくださった方々に支えられ、いよいよ卒業の時を迎えることができ、心から感謝しています。

入学した時は、(希望に燃えて)というわけではなく、どちらかといえば(観念して)来たという方が当たっていると思います。主の開いてくださった道を歩むにつれ、こ

の道で良いんだという安心感と確信を与えられて来ました。伝道者になるなど夢にも思いませんでしたが、主の証人、キリストの証し人として、全生涯を送ることの出来る恵みと幸いを痛感しています。

これから私に何が出来るかは分かりませんが、その時の自分出来る精一杯で神と人と教会とお仕えしていきたいと思っています。

尚も私のために引き続きお祈り頂ければ幸いです。

主に栄光を帰しつつ。



☆☆☆ 教職インタビュー Vol. 7

菊地和博師

今回は、中央聖書神学校教授・浜松教会牧師の菊地和博師にお話を伺いました。先生はいつも笑顔を絶やさず温厚な人柄ですが、静かな口調にも信仰による力強さを感じずにはおられません。今年度後期においては「組織神学」「ローマ書」を教えてください。

新聞部：中央聖書神学校と名称が新たにされ、また今年で 50 周年を迎えるわけですが、先生は 21 世紀に向けて、どのような神学校を目指されますか。

菊地師：難しいですね。そういうのは校長先生か、学生さんに聞きたいですよ (笑)。ここは伝道者訓練・養成の学校なので、日本の現状からするとなるべく多くの方が学校に入ってきて、全ての面で伝道者としての優れた訓練を受けられる学校となることですね。やはり、基礎的なアカデミックな面はすごく必要です。同時に実践的な面も必要ですね。例えば従うこと、祈ること、伝道することという一番基本的なことをさらに身につけることですね。生活に根差した基礎的な訓練も大切ですね。人間関係などのことから、プライドも削られますしね。私の頃と今も、そんなに神学校生活は変わっていないですねえ。とにかく忙しかったですね。



新聞部：先生の個人的なビジョン、夢を教えてください。

菊地師：いろいろありますねえ。個人的なことを言うと、聖書の世界、例えば未だ行ったことのないイスラエル、ギリシア・ローマ世界にのんびりと行ってみたいですね。また、アメリカの友達の家にも行ってみたいです。あと友達や家族と温泉に行きたいですね (笑)。教会の夢は神学校の延長上にあるんですが、御言葉に根差したクリスチャン、弟子になるという教会形成をしたいですね。

新聞部：最後に、在学生への要望と卒業生にはなむけの言葉をお願いします。

菊地師：在学生に関しては、先ほど言った基礎学門をしっかり身につけて欲しいですね。正教師論文でも、きちっとした論文を出せる先生は少ないですね。これからの時代は沢山の資料をわかりやすくまとめて、自らの内で統合して、理論にして、人に提示できる能力が問われてくると思います。卒業生ですね… (卒業生一人一人の名前を呼びながら)、大丈夫じゃないですか (笑)。あせらず、たゆまず、着実にやっていただければいいと思います。神の国はからし種のようなもので、最初は本当に小さいんですけど、それがすごく大きく成長するんです。その小さい種のところが大切なのです。一人が弟子となり、その人がまた良い影響力を与えていくのですから、地道に一人を大切にしていってほしいですね。

新聞部：ありがとうございました。

Congratulations

Congratulations



卒

200



田中千香子
吉祥福音教会
任地: 吉祥福音教会

主の御手に導かれ、多くの先生方や兄弟姉妹の祈りに支えられて、三年間の学びを終えることができました。本当に感謝致します。

思えば九七年の四月、何もわからずに「献身」の二文字だけを心に抱いて入学しました。召されたことの喜びも束の間、「こんな私で大丈夫なのか」と不安を覚えました。が、「主よ、主よ」と祈っていく中で不安は召されたことの新たな喜びと確信に変えられてきました。そして二〇〇〇年の今「召命」の二文字にその使命の重さをかみしめると同時に、「主よ、用いてください」との思いで満ちています。「強くあれ。雄々しくあれ。恐れてはならない。おのいのてはならない」との御言葉に



三宅 規之
めぐみ福音キリスト教会
任地: めぐみ福音キリスト教会

「牧師にだけはなりたくない。牧師以外なら何をやってもいい」そう考えて社会で働いていた私を、主は召してく

支えられ、来るべき日本のリバイバルを望みつづ、残りの生涯を主のために、魂の救いのために捧げていきたいと思っています。
「ここに、私がおります。私を遣わしてください。」



力み言葉の宣教



ださり、中央聖書神学校へと導いてくださいました。多くの方々の祈りと励ましに支えられ、そして何よりも主の深い憐れみと恵みによつて卒業の日を迎えることができました。と感謝いたします。

思えば入学前、献身に対して恐れおののき「主よ、こんな私がなれるでしょうか」と怯んでいた私に、主は「恐れはならない。おのいのてはならない。あなたの神、主があなたの行く所どこにでも、あなたとともにあるからである」(ヨシユア一・九)と励ましてくださいました。これからの歩みにおいても、この真実な方がともにいてくださることを信じ、イエス・キリストの素晴らしい救いの御業を伝えるため、自らの走るべき道を走りぬきたいと思えます。